

## 「池之原小学校の棒踊伝承の取組」

1 学校名 東串良町立池之原小学校

2 学年・人数 5年生39名 6年生32名 計71人

3 場所・日時

(1) 練習

9月10日～9月28日〔体育館・運動場にて、体育の表現学習の一環として取り組んでいる。〕

(2) 発表

10月1日〔秋季大運動会の高学年種目として発表している。〕

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能・伝統行事や史跡について

(1) 名称

池之原上西地区棒踊り(いけのはら かみにしちく ぼうおどり)

(2) 由来

朝鮮の役の凱旋祝いに踊られた踊りが県内各地に伝わったとの説はあるが、はっきりしたことは分かっていない。

その後、本校区では、米や野菜の豊作を願って2月の祈念祭で奉納されるようになったと伝えられている。

本校区は、それぞれ異なる踊りが、3つの地域で伝承されており、以前は青年が踊り手の中心であったが、後継者不足により、現在では、男女を問わず、小学生を主とした伝承活動に取り組んでいる。

本校の運動会で踊られるようになった経緯もはっきりとはしておらず、一昨年度までの10数年間は、映像に頼りながら、池之原下地区の棒踊りの継承・発表に取り組んできたが、昨年度からは、保存体制が充実している池之原上西地区の棒踊り保存会「ケヤキ会」に指導を依頼したところ、快く引き受けてくださり、上西地区の棒踊りを受け継いでいくことになった。

(3) 構成等

六尺棒を持つ踊り手2名、三尺棒をもつ踊り手2名が1組となり、正方形を成して、唄に合わせてながら棒を打ち合う。

唄の歌詞は多数あるが、発表の場に応じて使い分けられており、所作は同じ動きの繰り返しである。

また、唄、所作共に趣の異なる「松島」という独特でリズムカルな2人組の踊りもあり、本踊りの合間に踊られることもある。

衣装は、女性物の模様の鮮やかな着物に、赤と青、または赤と黄色のたすきと、豆絞りの鉢巻を着け、六尺棒の踊り手は紫色の布で顔を覆って踊るが、運動会では、着物の代わりに4色の法被を着用した。

実際に地域で踊られる際は、おしろいと口紅で化粧をする慣わしもある。

5 保存会や地域との連携の具体

本校は、約30年前から、秋季大運動会で棒踊りを披露してきたが、前述したように、最近の10数年は、映像を視聴しながらの練習であったため、所作が曖昧になり、児童の興味・関心も高まらず、棒踊りの継承を疑問視する声も聞こえてきていた。

そこで、昨年度発足した校区コミュニティ協議会を通じて「ケヤキ会」に依頼をし、約10日間に渡る練習の指導をお願いしたところ、毎回7～8名の方が仕事の合間を縫いながら足を運んでくださり、毎回、熱のこもった練習風景が見られるようになった。

また、「ケヤキ会」の方々には、棒踊りの指導をきっかけとして、教科学習のゲストティーチャーや、地域ぐるみの教育の振興を目指す校区コミュニティ協議会の委員としても協力をいただいている。

## 6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

地域の方々に喜んでいただく発表を目指すために、昨年度は法被を、今年度はたすきと棒を新調した。

また、学校便りや町の広報誌、新聞の活用を図るなどして、積極的な広報活動に努める一方、児童や職員と「ケヤキ会」の方々と絆がより一層深まるように、給食に招待したり、保存会の定例会や懇親会に参加したりしている。

今後は、棒踊りに限らず、伝統芸能の継承活動や文化財の保護活動に対する興味・関心が校区ぐるみで盛り上がっていくように、地域の方々や高齢者等を学校に招いて、校区に伝わる伝統芸能が一同に会して発表する催しが開催できないか等について、検討を重ねていきたい。

## 7 取組の様子(練習状況、発表の場等)



練習の様子



練習後の給食風景



「ケヤキ会」の方々



シンボルツリーを背にした運動会での発表

## 8 参加児童生徒・保護者・保存会・教職員等の感想・意見

児童からは、「練習は大変だったけど、「ケヤキ」会の人たちが一生懸命教えてくださったので、運動会でたくさん拍手をもらえてうれしかった。」「地域の方々が一生懸命伝えてきた棒踊りを絶やさないようにがんばっていきたい。」という感想を聞くことができた。

一方、「ケヤキ会」の方々と一緒に指導に携わった高学年の担任は、「ケヤキ会」の方々の熱心な指導に敬服しました。これからも、地域の方々と積極的に関わりながら、地域と一体となった教育の推進に努めていきたい。」と語り、地域活動の重要性に目を向け、自覚を新たにしている様子がうかがえた。

また、「ケヤキ会」の方々にも、「私たちが子どもたちに元気をもらった。子どもたちから慕われるようになって、地域でもあいさつをしてくれるのでうれしい。」「棒踊りに対する理解が深まった。これからは、地域の誇りである郷土芸能を絶やすことのないよう、私たちががんばっていきたい。」と喜んでいただいた。

さらには、保護者や地域の方からも、「棒踊りが楽しみで運動会に来ました。」「去年も感動したけど、今年はもっと上手になっていて、子どもたちのがんばりが伝わってきました。」などの感想が寄せられ、意義深い、充実した伝統芸能継承の取組となった。